

ウイルス感染騒動におもうこと

「百害あっても一利くらいはあるかもしれない」

金沢市 赤須治郎(正会員)



自分が感染者になったら、濃厚接触した相手を自白せねばならず、白い目で見られ、家族やご近所さんにも迷惑がかかり、自重しようと思うのですが、感染した者がイジメや差別の的になるのは、やはり、間違いではないでしょうか。感染症の予防には免疫力が必要であり、免疫力は軽く感染することで身につきます。百害あっても一利なしと断ずるのではなく、常識や情報を疑い、一利くらいはあるかもしれないと見直す視点も大切だと思います。緊急対応と称してトップダウンがまかり通っているからこそ、なおさらこのように考えています(2020・3・30記)

「コロナウイルス騒動を巡って」

北海道余市町 伊藤規久子(TRC理事)

北海道の今冬の降雪量は異常と言って良いほど少なく、気候変動が確実に進行しているという漠然とした不安を感じているところに始まったコロナウイルス騒動。初めは、これほどまでに世界規模で感染が広がっていくとは思っていませんでしたし、私たちの日々の暮らしがこんなに大きな影響を受けるとは想像もしていませんでした。今、改めてグローバル化社会のもたらす陰とはこういうことだったのかと実感しています。経済的な困窮状態もあちこちで起きていて、悲鳴ともため息ともつかぬ声がたくさん聞こえています。インバウンド関連の仕事をしている人たちはもちろんのこと、私の住んでいる地域では農業、漁業、水産加工業は多くの外国人労働者に支えられていて、この先の見通しが見つからないとのこと。

さて、余市テラスですが、やはり来店者は少なくなりましたが、営業は続けています。気分転換にコーヒーを飲みに来る方、無添加の調味料や平飼卵、手作りスイーツやお惣菜を買いに来てくださる方がポツリポツリと。小さなお子さんを連れのお母さんもやって来ます。こういう時だからこそ、コミレスのコンセプトである“お互いに助け合う人と人との繋がり”が大切かなと思っています。これから先のことは予測できませんが、この騒動が少しでも早く収束することを祈るのみです。(2020.4.5記)

「命を守ることは・・・」

北海道苫小牧市 館崎やよい(正会員)

政府の言うこともやることも信じられないでいる私にとっての情報源は海外です。あまりにも痛ましく、日本も又例外ではないと考えともっと危機意識を持つべきと思います。

命を守ることは、コロナで騒ぎ出すまでもなく、原発の放射能問題、戦争、食環境、自然環境、異常気象などなど多方面にあるわけですから、いちいち事象に振り回されないよう私たちは、常日頃から心して生きていかなければならないと思います。とはいえ、今はコロナです。早寝早起き、快食、快便、快眠を心掛け免疫を損なわない暮らしをしていきたいです。(2020・4・3記)

「新型コロナウイルス感染拡大に思う」

杉並区 茂木愛一郎（TRC理事）

専門家はこの流行を、感染スピードが非常に速いこと、罹患しても大半が軽症で重症者が流行の初期段階には少く、連鎖の特定化ができにくかったことが拡大を許したという。今や長期化の様相を呈している。特効ワクチンや医薬も見つかっていない。2月下旬、幼年者の罹患や致死率が低い事実があるにもかかわらず小学校・中学校の休止勧告を決めた政府には腹が立った。教職員の健康管理を徹底すれば学校が一番安全な場所であり、働く母親や地域の保育所等に過大なプレッシャーをかけることだったからである。この事実は現在も変わらないのではないかと敬遠していたユヴァル・ノア・ハラリの記事を時々読んだ。コロナ後があるとしても監視社会の進展が進むようなことがあってはならない。情報開示に基づく市民ベースの協力、国際連帯が何より必要であるという。ここでも「市民科学」の大事さを感じる。致死率に大きな違いがあり都市オランに限定した話であるが、カミュの『ペスト』を今読んでいる。(2020.4.2記)

「コロナ問題と財政」

焼津市在住 石原隆弘（TRC理事）

新型コロナウイルスの影響は、私たちの健康、衛生上の問題にとどまらず、経済へ大きな影響を及ぼす事態となった。

主要国が過去最大規模の財政出動へと舵を切り、わが国も首相の「かつてない強大なパッケージ」、「思い切った給付」などのワードのもとに、財政支出 15 兆円、事業規模で約 56 兆 8 千億円だったリーマン・ショック時を上回る規模の巨額対策を取るとされるが、効果の薄いバラマキにならないよう切に願う。

忘れてならないのは、日本の公債残高は約 906 兆円（令和 2 年度末見込み）であり、一般会計税収の約 14 年分にも相当し、債務残高の対 GDP 比も G7 中最悪なことである。また、バブル崩壊後、景気対策という名の投資を続けてきた結果が今の日本の財政状況でもあることだ。

今回の経済対策についても、安易に赤字国債に頼ることなく、不要不急な事業の廃止や見直しなどにより財源を確保すべきだと考えるが、そういった議論は見えない。

「財政」が、資源配分の政治的な調整となっている今、まさに財政改革が必要なのだと思う。(2020.4.1記)

「日常の危機感」

ただいま名古屋市在住です 岡室美恵子（TRC理事）

名古屋に引越してきたばかりで、まだ電車通勤の車内でしか人々の日常を知りえません（つまり普通に通勤しております）。朝は比較的詰めあって乗っています。帰りは季節柄か新入社員と思われる人達の集団を多くみかけます。楽しそうにおしゃべりしています。同僚と営業周りと思われる人達が手すりに寄り顔を近づけて仕事のことだろうヒソヒソ話をしている姿もよくみかけます。これまでは感染者は多いものの経路がはっきりしていたため東京とは違うと感じている人も多いように思えます。今朝の報道で県内の新たな感染者の半数が経路不明と。上京自粛の一方で、日常の自粛が入ってくるのはこれからのようです。(2020・4・4記)

「東奔西走ならぬ、北奔南走」中でヨレヨレです。」

日向市 後藤武敏（TRC理事）

1、個人としての体験　～責任者出てこ～い」・・・人生幸朗さんのボヤキを思い出します。なぜこんな不安な生活を送らなければならなくなったのだろうか？先日、会議と「家の用事」をしようと実家に帰るが「コロナ感染対策」で高齢者施設に入れず。とにかく、ウィルスのキャリア（運び人）にはなりたくないの、直線距離なら数百メートルの実家を眺めながら「無事でいてくれ」と祈る。翌日「大正15年（昭和元年）」生まれの親父が緊急入院→「緊急手術」と緊急連絡。とにかく手術の経過や、今後の対応を話しながら荷造し、病院近くのホテルを予約する。結果を待ち待ち、やきもきしながら少ない情報で今後を想定するしかない。日付を何とかまがずに、手術は終了したとの連絡・・・94歳の今後の生活を考えると・・・。@@@ここで、コロナウィルスの弊害が噴出する@@@長男が面会に帰っても病棟内にすら入れない＝コロナ「面会謝絶」付き添ってくれた弟のみの面会に限られるとの連絡→ホテルをキャンセルする。翌日、携帯のコールで飛び起きる「容体が悪化したのではないかと冷や汗が出る」。内容は、病院から持参するように言われた物資を持って行ったら、「弟も面会謝絶」に。「手術の後の感染症対策」ではなく、病棟内の「コロナウィルス感染対策」ですとの事で病院からは「こちらから連絡するまでは、面会謝絶です」とのこと・・・。医師からの手術の説明も、父との面会も出来なければ、今後の対策も立てられない。「責任者でてこ～い」と、頭に血が上っていると、実家付近で「感染者発覚」。これでまた、病院に近づけなくなり、退院後の相談をしたい近くの入院可能な「病院」「老健」「有料老人ホーム」「地域包括支援センター」とも相談できなくなる。この感染症はワクチンも無く、死に繋がる病気、対応が複雑すぎる。

2、エコノミストとしての見解　～経済優先の拝金主義者達よ、今が考え直す時だ。これは始まりに過ぎない。「敵を知り己を知れば百戦危うからず」という言葉がある、私たちはコロナウィルスと闘う。コロナウィルスの関連番組の中で、国立感染症研究所の研究者から興味深い発言があった。「新種のウィルス被害に遭わないために、南の国で森を切らないで済む方法を考えなければ」ならない。気候変動の影響を受け温暖化が進み、永久凍土は溶け過去に封じ込められたウィルスが発見されている。人間は地球を独り占めし、思うままに開発し、自然を破壊し続けている。「今後様々なウィルスが、今、開発されている場所から出現する可能性が高い」と、研究者は言う。「パンドラの箱」のようなものを、人間は多分自分の手で開き続けている。様々なウィルスの発生の根源に、「南北問題」があることに多くの人が気づいている。世界中で格差は広がり、さらに利益を独占しようとする人たちは、開発をやめないだろう。「豊かになりたいと願う人たちの欲望」も、先に豊かになった私たちは止めることは出来ない。今ある「資本主義の上で成り立つ民主主義に似たシステム」は、限界を迎えている。クラスターを発見し感染を防ぎ続けても対処療法に過ぎない、「ワクチン」が必要だ。地球市民としてどうすべきなのか？「共生できるのか？」、私たちは今、試されている。②については、行き過ぎた資本主義とナショナリズムに、SDGsのような綺麗ごとが揺り戻しを促せるのか？ダボス会議なんて学者以外注視してない、バカ製造国家の政治家と官僚の思う壺だと感じています。愚かな国の、愚かな国民の一

人で出来ることは「まわりの人と気づいた者」から影響を受けにくい「小さなコミュニティをいくつもつくることだ」と、原っぱカフェの浦田さんと三年前から話しています。コミレスがその真ん中にあり機能すれば、最もうれしいことだと思います。(2020・4・1記)

「多くの道民は覚めた気持ちでニュースを聞いていた・・・」

北海道釧路市 工藤洋文(会員)



コロナウィルスの名称を聞いたのは武漢市で蔓延している時期で中国がこれから春節に入る直前だった。インバウンドで冬は世界各国から北海道にゲストが来ており、最多は中国。2月2日から開始する札幌雪祭りではウィルスに感性する可能性がある。ニュースでは雪祭り見学予定の小学校の75%が見学中止にした。案の定、雪祭り見学した北海道各地の人が散発的にコロナに感性したニュースがあった。不思議なことにメディアは雪祭りには一切ふれない事が変におかしい。道民は不思議がっていた。

2月28日北海道知事が非常事態宣言として3週間の自粛と翌日に安倍晋三に面会したとか・・・多くの道民は醒めた気持ちでニュースを聞いていたと思う。(2020・4・6記)

事務局より

伊藤陶子(TRC理事)

この度は「ニュースレター春号」発行に当たり、原稿をお寄せいただいた皆様、お忙しい中本当にありがとうございました。今号のように同じテーマで、皆さまのお考えをお聞きしたのは初めてです。いろいろな立場から書いていただき、とても読みごたえのあるニュースレターが出来ました。皆さまが同志だと思えて嬉しく感謝です。

コロナについては状況は日々変わっていきます。日常を取り戻せるのはまだまだ先ですが、社会の一員としての責任ある行動をとっていきたくと思っています。私の所属している団体も、若い方々が、長い休校で疲弊し切っていますが、顔を合わせることもままなりません皆で励まし合っているところです。どうぞ皆様お気をつけてお過ごしください。(2020・4・6記)

自粛続きで飲食店が悲鳴 《発起人：HAJIME 米田肇・柏屋 松尾英明 (株)Office musubi 鈴木祐子》

＝署名依頼のお願い＝ 新型コロナウイルスの影響で、多くの飲食店が打撃を受けており、このまま外出控えや企業の会食自粛が続くと、倒産する店舗が多く出てくる事が予測されます。自分の好きな飲食店が消えてしまうことを止めるためにも、国や自治体に、飲食業界の救済の声を上げたいと考えています。それには皆さんの声が必要です。救済依頼内容は、売上減少や店舗休業の状況でも払い続けなければならない固定費(家賃)と雇用者給与の補助です。飲食店を利用する皆さん、そして飲食業界側からも、多くの署名を集め、自治体を動かすことに力を貸してください。今後、請願に向けて調整を進める中で、こちらの内容に追加修正を加える可能性もあります。迅速に進めなければ手遅れになる状況のため、まずは第一弾として、発信させていただく次第です。ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます(世古一穂)